



あゆみ

No. 159

令和 3年 3月30日発行

編集 発行：社会福祉法人 啓明会 芥山寮・第二芥山寮
 〒863-0006 熊本県天草市本町下河内 680
 TEL 0969-22-5339・0969-22-1766 FAX 0969-22-5090
 E-mail reizanryou@miracle.ocn.ne.jp・reizan2@muse.ocn.ne.jp
 社会福祉法人啓明会ホームページURL <http://keimeikai.amakusa-web.jp/>
 施設の旬の話題を「レイザンTOP.IX」にて更新中です。



咲き誇れ！
 心に満開の笑顔の花！

「TAKERからGIVERへ」

施設長 鮑田 一夫

例年よりも早く桜は満開となり、

春の扉が一気に開いてしまったような近頃です。新型コロナウイルスの終息はまだ見えぬ、様々な予防策を講じながらの日常が続いていますが、それでも人の営みも自然の営みも不可逆的に進んでいます。皆様はどのような春をお過ごしでしょうか。

さて、芥山寮・第二芥山寮の令和三年度の重点目標は「TAKERからGIVERへ（与えられる仕事から提案する仕事へ）」と決まりました。

小項目は「①会議での決定事項の遵守と情報の共有②全体支援とともに一人ひとりに時間をかける③失敗してもチャレンジし続ける④笑顔、言葉遣い、身だしなみに気を付ける⑤リソースや工夫でコスト削減に努める」の五つです。昨年度の目標は「良き耳を持つ」でした。利用者はもちろん職員同士でも互いの意見に耳を傾け合い、意思疎通の図れる職場を目指してきたつもりです。まだ道半

ばですが、今年はインプットだけでなくアウトプットができる職員を目指してこの目標にしました。

福祉の現場における離職の最大の原因は給与や福利厚生ではなく、仕事に対する意義を見いだせなくなることと言われています。しかしそれは人に与えられるものではなく、自分から見つけ出すものです。そのためには能動的に仕事に向かう必要があります。職員には是非自分の意義を見い出して、自分の人生を充実させてほしいと思います。また、そのような姿勢はきつと利用者の皆さんにも響きます。人は他者に認められることで、受け入れられることで自分を保つことができる社会的な生き物です。例えば、ボールを目の前に置いて自分からそれで遊ぼうとはしない利用者でも、そのボールを投げれば投げ返してくれます。やがてボール遊びの面白さがわかった時には笑顔が出てきます。そんな単純なこと一つでも、こちらからの働き掛けの大切さがわかります。職員の能動的な関わりこそがここでは最も大切な支援の姿勢であることを、身をもって知ってほしいと思っています。

サービスの現場より



『コロナ禍で得たもの』
副施設長 鮎田 逸子

昨年四月新型コロナウイルス感染症が国内で拡がり始めた

頃から今まで、当施設でも日々の消毒、衛生用品の確保、マニュアルの作成等様々な対策を打ってきました。その詳細については前号で支援課長がご報告したとおりです。そのどれもが無駄になることが最良ではあるのですが、私達にとってはこの一年は無駄ではありませんでした。日々の業務に加え、てコロナ対策の準備をするのは、正直大変です。一人の力ではできないものではありません。例えばゾーニングでは、実際に支援員がガウン等を着脱しながらゾーンへの出入りや脱着をみて出てきた疑問や不安を看護師に伝え、その都度ゾーニングは改良されていきました。実際に感染者の支援を承諾してくれる職員がどれだけいるのかというデリケートな問題にも踏み込みました。年齢、基礎疾患、家族構成等それぞれが持つ問題をお互いに認めつつ、職種、職階を超えて協力し合う体制をいざとなつたらとれるという手応えを、私はこの一年で感じる事ができました。それはこれからも茶山寮の貴重な財産になっていくことと思えます。



『私の担当利用者さんへの取り組み』
支援員 中原 愛

私が担当しているIさんは八〇歳を超えておられますが、意見をしっかりと持った方です。他者に対してとても優しい方で、他の利用者さんと喧嘩されてもその方が入院されると「いつ頃帰ってこられますか」と心配されます。

Iさんは昨年八月に転倒、下肢を骨折され手術、約一か月入院されました。リハビリが思うよう出せずに退院、寮でリハビリとなりました。移動は歩行器を使用しマンツーマン。毎回、歩行活動に参加してもらいました。初めは拒否もありましたが、次第に「歩きましたよ」と言ってくることが多くなりました。しかし自由に動けないストレスから、髪を抜く自傷行為が見られるようになりました。

食事の際は混雑回避等のため、食堂に入る順番があります。Iさんは三番目のグループで食堂に入って貰っていましたが、先の方が移動し始めると「まだですか」と泣き出してしまいます。「Iさんは何分頃です」と本人の腕時計で毎回説明しますが五分程経つと「まだですか」と不安定になることが多くなりました。食事が始まって「歩行器」と言ったら食事が半分以上残っていても帰る事が一番で、ゆっくり食事が摂れませんでした。現在は下肢の筋力もつき歩行も安定してきていたので、ご家族にも相談したところ「動けるうちは一人で」と言ってくれたので移動は自分でとなりました。自傷行為も少なくなり、食事もゆっくり食べられるようになりました。

職員同士が声を掛け合うことで転倒防止等利用者さんが安心して生活出来るように努めています。



『私の担当利用者さんへの取り組み』
支援副主任 柴田 玉子

私が担当しているSさんは食べる事が大好きで、笑顔がとっても素敵

な方です。好き嫌いがはっきりされており、手先が少し不器用なせいか苦手な活動には「出来ないだろ」と話され、その場から離れこれからは何をしようか考えながら廊下を歩かれます。そこで本人の興味がある物を探し、色んな事にチャレンジしてもらいました。

机を作りたいとの要望が聞かれ、机作りにチャレンジしました。DIYを得意とされる池田支援員に協力してもらい、事前にどれ位の机のサイズにするか話し合い、材料を揃えて開始。作業の手順等を解りやすく説明してもらい、難しい所は手伝い完成する事が出来ました。感想を聞くと「金づちで叩く作業が一番楽しかった」と話されていました。完成した机はとても気に入っており、塗り絵の時に使用しています。他にも簡単な絵柄の縫物にもチャレンジしました。糸が絡む、生地を縫い込んでしまう等やり直しも多く、途中で投げ出してしまおうのではと心配しましたが、都度「大丈夫だよ」と声を掛けてあげた事で、完成する事ができ喜んでくれました。完成するまで時間はかかりましたが、Sさんの笑顔を見る事ができ、こちらまで嬉しくなった瞬間でした。これからもいろんな事にチャレンジしてもらいたいと思います。



『Challenge to 0』
支援員 松山 憲士

地域活動委員会の活動の中で、令和二年度の新企画として、天草のゴミをゼロにしたいという想いから「Challenge to 0（ゼロへの挑戦）」をスタートさせました。普段はあまり落ちていいるゴミを意識しての生活をしていませんでした。しかし今回の企画では、活動のたびに「ゴミはたくさんあるだろうか、どこかに落ちていないか」と逆に意識をして活動場所へと向かいました。

実際に現地に着くと、海ではどこからともなく流れ着いたゴミや、漁港には釣り人が捨てていっただろう糸や弁当ゴミが放置され、草むら等にはペットボトルや空き缶などが捨ててありました。ほとんどのゴミが故意に捨てられた物だと感じました。そしてその量に最初は驚きを隠せませんでした。参加した利用者の皆さんも「わあ、いっぱいおちてる」とゴミの多さに圧倒されていました。しかし皆さんが黙々と作業したこともあり、すぐに袋がゴミでいっぱいになっていました。夏は暑く、冬は寒いという厳しい環境の中の活動でしたが、地域の方からは「ありがとうございます」とお礼を頂いたり「Challenge to 0って楽しいね」と言ってくれて下さる利用者の方もいて、企画した私もとても嬉しく思いました。

一年で拾ったゴミは二一六・五キログラムにもなりました。しかし天草のゴミがゼロになったわけではありません。それでも利用者の皆さんの頑張りで、天草を綺麗に出来たと感じています。今後も活動を続け、天草が少しでも綺麗になり、私たちの姿を見てゴミを捨てる人が少しでも減ってくれたらと思います。



『「食の見直しについて」〜減塩の取り組み〜』
管理栄養士 長嶋 さおり

年間を通して取り組んでいる「食の見直し」の中にも『減塩』があります。塩分の過剰摂取は血圧を上昇させる要因となるため、高血圧や慢性腎臓病等の発症予防の観点から摂取量の目標値があります。日本人の食事摂取基準二〇二〇年版によると男性七・五g以下、女性六・五g以下が目標値となっています。

まず現状把握のため、令和二年一月から六月までの塩分摂取量を調べ、摂取量が多くなってしまう原因を検証したところ、六つのことがわかりました。①四月まではおでんを筆頭に煮物が多いこと（冬場のため）②汁物が一日三回付く日があること③丼ものや変わりご飯、すし飯など塩分を多く含むご飯の回数が多いこと④行事食が多いと、塩分が上がること⑤コンソメや中華あじを使用した汁物にも、さらに醤油でしつかり味付けしていたこと⑥ドレッシングをたっぷりかけていたことの以上六点が検証の結果わかりました。そこで六月からは①汁物に使う一人分の醤油の量を二〜三CC減らす②汁物は一日二回までにする③ドレッシングの量を控え目にする以上の三点を継続して実施しました。

その結果、昨年八・三gだったものを平均〇・三g減らして八・〇gにすることができました。二〇二〇年の目標値にはまだ達していませんが、今後も継続し美味しく身体によい食事づくりに努めていきたいと思えます。

節分



鬼は外！！



コロナ鬼だぞお！！



こりゃたまらん(^_^;)



みんなでやっつけろ！

苓山寮と第二苓山寮で台同で行われていた豆まきですが、新型コロナウイルス感染症防止の為、今年はそれぞれの施設での実施となりました。また、今年の節分は二月二日となったことで皆さん大変驚かれました。鬼が登場すると驚いて泣きはじめる利用者さんもありましたが、みなさん笑顔で豆を鬼に向かって投げていました。豆まきが終わった後に利用者さんから「楽しかった」と感想を聞いて、私自身嬉しくなり、来年も喜んで頂けるよう心掛けていきたいと思いました。

ひな祭り会



ハイ、チーズ！！



美男美女♡



今日はお姫様よ～！



アラビアンナイト！？

三月三日ひな祭り会が開催されました。女性利用者の皆さんはドレスや着物でトレスアップされ、スーツや着物を着た男性職員にレッドカーペットをエスコートされ、それはまさにファッションショーのようで、満面の笑みで歩かれました。利用者の方の笑顔が忘れられない、とっても楽しい会になりました。保護者の方にお目にかけれなかったのが残念です。今後も喜んで頂ける様な企画が出来ればと思います。



令和二年度 さくらの会・合同歩行表彰式

例年は「生活・作業功労者表彰」として生活や作業を頑張られた利用者さんを表彰していましたが、今年から「さくらの会」に名前が変わりました。三月二三日にさくらの会・合同歩行表彰式を行い、生活や作業、合同歩行を頑張られた利用者の皆さんを表彰させていただきました。受賞された皆さんおめでとうございます！

【さくらの会】

第一茶山寮

- ・小山 兼徳さん
- ・田副 朋也さん
- ・吉村 裕貴さん
- ・伊津野縫子さん
- ・岡本 幸代さん
- ・坂口美和子さん

【合同歩行】

第二茶山寮

- 総合部門
- 一位：田副 朋也さん (一三六周)
- 二〇～三〇代部門
- 一位：吉村 裕貴さん (一二六周)
 - 二位：佐藤 友耶さん (九五周)
 - 三位：松田 直樹さん (七八周)
- 四〇～五〇代部門
- 一位：白石 安洋さん (八九周)
 - 二位：池田 富春さん (八三周)
 - 三位：小林 美保さん (七二周)

第一茶山寮

- 総合部門
- 一位：山本 直尋さん (一三七周)
- 二〇～三〇代部門
- 一位：田中 麻美さん (一一六周)
 - 二位：白石 明菜さん (一一〇周)
- 四〇～五〇代部門
- 一位：松下 昇 さん (一二九周)
 - 二位：岩崎久美子さん (一二三周)
 - 三位：田中 秀幸さん (一一一周)
- 六〇～七〇代部門
- 一位：古川 秋男さん (八四周)
 - 二位：吉田 実夫さん (七七周)
 - 三位：坂口 保代さん (七三周)
- 八〇代部門
- 一位：菅原 道正さん



- 第二茶山寮
- ・田中 秀幸さん
 - ・早瀬 勝徳さん
 - ・山隈 孝也さん
 - ・吉田 実夫さん
 - ・岩崎久美子さん
 - ・白石 明菜さん

- 八〇代部門
- 一位：江口 昭美さん (一二二周)
 - 二位：岡部 亮一さん (一二二周)
 - 三位：伊津野縫子さん (一一一周)
 - 開田キミエさん (一一一周)
 - 三位：稲田キヨ子さん (二〇周)



【新利用者紹介】川本 真平さん（荅山寮）



一月二日より荅山寮を利用させて頂いています。沢山のお友達を作って下さい。これから楽しい時間を過ごしていきたいでしょう。宜しく願います。

【新職員紹介】椎山 風花さん（第二荅山寮）



二月二二日から第二荅山寮の調理員として勤務しています。まだ慣れない事が多いですが、一生懸命頑張りますのでよろしく願います。

【退職職員紹介】丸田キヨカさん（荅山寮）

三月三十一日付けで退職されました。調理員や支援員、用務員など約四七年もの長い間、施設や利用者さんの為に勤めて下さいました。今後も丸田さんのご健勝とご活躍をお祈りしています。ありがとうございます。

【グループホームつばさ・かなで落成式】

三月十六日に第二荅山寮グループホーム事業所「つばさ・かなで」の落成式がありました。四月に浜荘から移行となるのが「つばさ」、そして五月から開設となるのが「かなで」です。

式には、施工された昭和建設様やこれまでグループホームを支えてくださった世話人の方も出席くださいました。無事に落成を迎えられたのもグループホーム新設に関わられたすべての皆様のおかげです。誠にありがとうございます。

この新しいグループホームに入所される利用者さんが健やかに生活を送ることが出来るように職員一同努めていきます。



利用者の風景

中村 英子さん

お話好きで笑顔がとても素敵な頑張り屋さんです。英子さんとは今年「自分で洗濯する」という事を目標に一緒に頑張つて参りました。



最初は「面倒くさい」の一言だったのですが、春の心地よさや周りの方からの暖かい応援のおかげで、自分から「洗濯しよう」と取り組んでくださる様になりました。今では天気や時間を見ながら一人で洗濯、干す、取り込む作業を行ってくれています。今日も「洗濯したよ」と笑顔の声が聴け、私も一緒に笑顔になります。

椎原 隆司さん

グループホームはばたきの椎原さんは、毎朝「おはようございます」と元気に挨拶され第二荅山寮のホールへ来られます。

椎原さんは新型コロナウイルスなどが流行する前から、第二荅山寮のホールや廊下の手摺りなどを、毎日欠かさず自ら進んで次亜拭きされます。本人の役割として他の利用者さんがしないことを積極的に行って下さるので、これからは無理をされないようサポートして行きます。



お祝い

第二荅山寮の和田卓巳支援員がこのたび入籍されました。おめでとうございます。これから幸せな家庭を築いて下さい。



行事予定

- 四月 一日 辞令交付式
 三日 やきもの教室開講式
 七日 配置医来寮
 十五日・十六日 JA厚生連基本健診
 三十日 第一回管内研修

- 五月 十二日 管内買物
 配置医来寮
 総合防災訓練

- 六月 二日 配置医来寮
 八日 家族交流会
 十五日 管内買物

※家族会総会と愛藍ピクニックは中止が決定しました。お知らせいたします。

編纂後記

令和二年度も終わり、四月から令和三年度が始まります。「三日・三月・三年」というように、三がつく時期というのは節目の時期と言われていきます。私自身この施設に勤めだして今年の夏で三年目となります。出来るようになった業務も増えましたが、いまだにわからないことや、先輩方にフォローしていただくこともたくさんあります。何のために仕事をしているのかを考え、自分の業務がどのように施設の皆さんの役に立っているかを見つめなおす一年にしたいと思います。「みんなの事務員」になれるよう精一杯これからも努めていきたいと思

